

崩壊熱評価ワーキング・グループ全体会合議事録

日 時 昭和 61 年 8 月 28 日 (木) 13:30~17:00
場 所 原研本部第 5 会議室
出席者 中嶋龍三 (法大), 山田勝美, 橋孝博 (早大), 大竹巖 (I S L)
玉井忠治 (京大), 梅沢弘一, 田坂完二, 片倉純一 (原研),
飯島俊吾, 吉田正 (N A I G)

配布資料

- D H - 8 6 - 0 1 Activity of Decay Heat Evaluation Workin Group,
1986-87 Progress Report 原稿 (吉田)
D H - 8 6 - 0 2 Nucl. Sci. Eng., 93(1986) 193-203 (吉田, 片倉)
D H - 8 6 - 0 3 遅発ガンマ線スペクトルの計算と測定の比較 (片倉)
D H - 8 6 - 0 4 Simplified Method for Calculation of Neutron
Capture Transformation Effect of Fission
Products on the Decay Power (田坂, 飯島)
D H - 8 6 - 0 5 Calculation Scheme for Step-wise Irradiation及び
高転換BWRの崩壊熱 (飯島)
D H - 8 6 - 0 6 遅発中性子採用データリスト (中嶋)

議事内容

1. 経過報告と一般報告

- (1) 1985年秋からの一年間の作業経過とその成果につき、資料 D H -
8 6 - 0 1 にそって吉田委員より報告があった。要点は、遅発ガンマ
線スペクトルの計算結果が良好であること、当グループの平均エネル
ギーデータを用い米国のグループが崩壊熱計算を行っていること、
J N D C F P 崩壊データファイル第 2 版の作成が進んでいること、
である。

- (2) 西独ハイデルベルグの H.V. Klapdon 教授が 6 月来日した際、吉田委員が同教授と話をする機会があり、話の内容が紹介された。
- (3) 1988年の核データ国際会議準備状況につき報告があった。

2. 遅発ガンマ線スペクトル計算

資料 DH - 86 - 02 及び 03 にそって一部に理論推定スペクトルを用いた遅発ガンマ線スペクトルの計算法と測定との比較につき、片倉委員より説明があった。

3. Capture 効果について

- (1) 資料 DH - 86 - 04 にそって、LWR, FBR とも簡単な FP 中性子吸収チェインの組合せで、FP 崩壊熱の中性子吸収効果が再現できるとの説明が田坂委員よりあった。
- (2) 資料 DH - 86 - 04 にそって、高転換BWR の FP 崩壊熱の評価結果が飯島委員より報告された。

4. 遅発中性子データ

Pn 値は米国の Reeder が 1983 年の BNL 会議に出したデータに推定値を加えて第 2 版用とする旨、中嶋委員から報告された (DH - 86 - 06)。また β 値をこれらのデータから算出し、測定と比較する予定と説明された。

5. その他

ここしばらくは第 2 版の完成に注力すること、第 2 版完成後はこれをベースに崩壊熱曲線とガンマ線スペクトルのフィッティング式を作成すること、が確認された。